

代表取締役社長
藤田 清志

創業以来、確かな技術と実績でお客様の期待に応え続ける藤工業株式会社。先代の事業を受け継ぎ、鉄筋の総合デパートとして「日本一の鉄筋屋」を目指す藤田清志代表取締役社長の、これまでの歩みに迫ります。

子どものころ、社長にとって先代である
お父様はどのような存在でしたか。

仕事一筋の厳しい人でした。子どものころに褒められた記憶はほとんどありません。そもそも仕事が多忙で家にいること自体、ほとんどありませんでした。父と会話する機会がなかった一方で、祖母とはよく話していた記憶があります。家族のなかでは祖母が大好きで、私はおばあちゃんっ子でした。

高校生の夏休みは、アルバイトの鉄筋職人として現場を手伝っていました。貯めたお金でオートバイを買うのが目的でした。高校生のときに免許

を取って、実際にバイクを購入したところ、父から猛烈に怒られたのを覚えています。

学校を卒業した後、家業を継ごうという
気持ちはありましたか。

いずれは自分が後を継がなければいけないだろうという気持ちはあったと思います。ただ、一度はサラリーマンを経験してみたいと思い、電気工学科を卒業して大型コンピュータを設置する会社



に就職しました。

コンピュータの設置は、顧客企業が業務を行っている日中にはできませんので、作業を行う時間帯は主に夜間。昼間は仕事の段取りなどを行って、顧客が終業してから深夜にかけて大型コンピュータを設置し、3～4時間の仮眠をとってから再び翌日の業務に備えるというハードな毎日でした。この会社で4年ほど働いた後、ある程度社会人としての経験値を得られたと思い、家業である藤工業に入社しました。

入社当初は、どういった業務に
従事しましたか。

協力会社の親方のところに預けられ、そこで約3年間、いろいろと学ばせてもらいました。学生時代のアルバイト経験から作業の内容は大方把握しており、現場で戸惑う場面はあまりなかったと思います。その後、自身も親方として働きはじめましたが、5年後に父と衝突してしまい会社を飛び出すことに。そうして別の鉄筋会社へと移りました。

その会社では、自社では経験することのできない鉄筋の組立てをしており、これまで経験したことのない大型の現場を任せてもらえました。初めてCADに触れたのも新鮮で、家業に従事してただけでは得られなかった、貴重な経験をたくさんさせてもらいました。当時課長だった方が、現在は社長に就任しており、今でも仲良くさせてもらっています。

その後、再び藤工業に戻られたんですね。

当初、戻ってくる気はありませんでした。自分で会社を起こそうと思っていたぐらいでしたから。けれども父から「工場長の具合が悪くなったので、助けてほしい」と言われたのです。父に何かを頼まれたのは、そのときが初めてでした。

そこから先はいろいろと仕事を任せてもらったり、会社について建設的に議論をしたりと、関係性は少しずつ回復しました。戻ってきて良かったと、そして先代には感謝しております。

強く印象に残っている出来事は
ありましたか。

何もない、ゼロの状態から仕事を作り上げていく経験をさせてもらったのが一番の思い出です。もともと越谷に2つの工場があったのですが、その1つを閉鎖することになり、岩槻（現第一工場）に新しい工場を立ち上げる運びになりました。不動産屋から購入した空っぽの工場を父は私に預けて、「あとは、仕事を自分で見つけてこい」と。さらに父は、秋田に民事再生で手放した工場があることを人伝いに聞いて購入し、そこも私が任されました。

何の伝手もない県外で、仕事を受注するのは非常に大変でした。幸い、工場長夫妻が残ってくれていたもので、2人の協力を得ながら地域の人との関係性を築き、地元の人を雇用しながら経営幹部、従業員、いろいろな方々に助けられながら工場を発展させることができました。その経験は、宮城や北海道での工場立ち上げの際にも活きていると思っています。

2014年に藤工業の代表取締役となった藤田社長。厳しく鍛えてくれた父と献身的に支えてくれた顧問のおかげで、スムーズに会社を引き継ぐことができたと当時を振り返ります。鉄筋工事一筋の会社から、鉄筋関連のものづくりまでを行う企業へ。新たなステージへの飛躍が、ここからスタートします。

（後編に続く）



Let's learn!

藤工業3年目社員の 成長実録



営業本部
係長
の ろ けん いち ろう
野呂 健一郎さん

入社年:2021年

入社してから成長を感じるこ

お客様との信頼関係と繋がり

一番成長したことは、お客様との繋がりが広がっていることだと感じています。仕様や納期についての相談など、お客様から頼っていただける機会が増えました。初めは鉄筋がどのように使われるのかまったく知らなかったため、勉強会で覚えたり皆さんに教えていただいたりしながら覚えしました。そのような過程を経て、今ではお客様から相談のご連絡をいただけるようになり、誇らしく、ありがたいと感じています。

注力していること

一つひとつの業務を 丁寧に確実にこなすこと



営業はさまざまな業務を並行して行う必要があります。その中で大事なことは、優先順位をつけ、一つひとつのタスクに対応することです。お客様の要望や相談に対して着地点を決め、丁寧に対応していくことでご紹介の話がいただけるようになりました。

この企画では、営業本部の野呂さんに、入社してからの成長を振り返っていただきます。特に印象に残っているのは上司に言われたあの言葉。野呂さんの成長記録をぜひご覧ください。



印象に残っている上司のアドバイス

自身で人脈を作りに行く

最も印象に残っているのは「仕事は引き継いでも人脈は引き継げない。だから自分でしっかり人脈を作りなさい」という言葉です。営業の心得として中村良和さんにアドバイスをいただきました。日々仕事をする中で、本当にその通りだと実感しています。

また、人を大切にするこ
と、人との繋がりを大事
にすること、お客様に全
力かつ真摯に向き合う
ことを心がけ、私を通し
て藤工業を見ていただ
けるように努めている
最中です。



今後の目標

3年以内に二階級特進

住宅業界では新築が年々減少傾向にあります。しかし営業である以上は受注頭数と売り上げは増やさなければならないため、がむしゃらに頑張りたいと思います。研修で宣言したとおり、3年以内に二階級特進を目指します。私に足りないものは、リーダーシップです。人を引っ張る力を身につけ、進んだ先に昇進が見えてくるのではないのでしょうか。これからも全力で頑張ります。

『澄和』リニューアルのお知らせ！

発行日

毎月10日
と25日

社内報がリニューアルします！そこで、社内報担当者が『澄和』に込める思いを語りました。読者の皆さまが興味を持ち、楽しんでいただける企画を考えていますので、乞うご期待ください。

社内報タイトル『澄和』に込めた意味

「澄」

憂いのない澄んだ心

「和」

人々の幸せのために、
藤工業グループに
関わる人々との
「和」を築く

憂いのない澄んだ心で、共存共栄や助け合い、歩み寄り、コミュニケーション、調和、永遠の平和を目指せるように。

藤工業グループの志が永遠に、脈々と受け継がれるように。

藤工業グループが大きくなっても、お客様、社員、社員の家族、仲間への感謝の気持ちを忘れず、驕らず謙虚な姿勢でいられるように。

社内報担当者からコメントをいただきました！

総務部 総務部長

みや た こう いち

宮田 幸一さん

意気込みと

社員の皆さんへのメッセージ

各拠点間の気持ちの距離感が縮まるような社内報を目指していきたく思います。皆さまの力が不可欠です。ご協力よろしくお願ひいたします。

社内報で行ってみたい
企画や取り組み

新入社員紹介コーナーを設けたいと思います。



総務部

たけ だ りょうへい

武田 竜平さん

意気込みと

社員の皆さんへのメッセージ

皆さまの思いや熱意を共有する発信源となり、皆さまの刺激になる情報を発信できるように努めます。また、皆さまに興味をもっていただけるよう情報収集、考察をしていきます。

社内報で行ってみたい
企画や取り組み

社員の、会社では見られない印象的な写真を集めて掲載したく思います。好きな言葉や格言、その言葉が好きになったエピソードや理由も掲載できたらと考えています。

ほん だ ひろ み

総務部 主任 **本田 裕美さん**

意気込みと社員の皆さんへのメッセージ

社内報を通じて、なかなか関わる事ができない工場や部署の皆さまの、仕事に対する姿勢・思い・頑張りを共有し、お互いに刺激し、高め合えるような内容を掲載するべく頑張ります！よろしくお願いします。

社内報で行ってみたい企画や取り組み

社内報を読んでいたら答えられる問題をいくつか準備し、「〇問正解者にはQ U Oカードなどをプレゼント！」という企画を年1回でもやってみたいと思います。社内報を読み返す機会にもなると思います。

かわ つ よう こ

総務部 **河津 洋子さん**

意気込みと社員の皆さんへのメッセージ

社内報を通じて、社員一人ひとりが会社への理解を深めていけるよう、情報をお伝えできたらと思います。頑張ります！

社内報で行ってみたい企画や取り組み

春夏秋冬さまざまなイベントについての過ごし方や思い出など、楽しんでいただけるような季節ネタの紹介をしたいと考えています。

回答はこちらから！

アンケートの
ご協力を
お願いします！

